

# 白山登山 (癒され編)



イワキキョウ



クルマユリ



ハクサンフウロ



クロユリ

2004.7/24 ~ 25



ミヤマキンバイ



チングルマ

お花畑に癒される



ニッコウキスゲ



ミヤマタンポポ

天候：晴れ

二ヶ月ぶりの白山、5月に山スキーで訪れた時のあの大雪はいったいどこへ消え失せてしまったのだろうか。高山での大自然の移り変わりの速さには計り知れないものがある。

何ヶ月もの間、重い雪の下で遅い春が来るのをジッと耐え続けて、恵みの陽光を浴びれば一斉に小さな高山植物が色とりどりに咲き乱れて、さわやかな風に花びらをふるわせてささやいている。足下のクマササも風にたなびき葉と葉をふれ合わせながら朝露を光輝かせて山々に語りかけているように歌っている。ハエマツの鮮やかな緑一色に染まった別山、お花畑街道の大屏風縦走路、それらにアイシャッターを切りながら・・・これほどの贅沢な一瞬、そしてまた一瞬を体中にもらい受けながらチブリ尾根の巨大ブナやトチの木々から発するフィトンチッドを浴びて、下界での生活で他人の自己虫に体中をまとわりつかれたホコリが払われていく・・・これほどの癒しがほかにあるだろうか。

## 24日 晴れ

昨夜から車を走らせて夜中に市ノ瀬Pでスターシャワーを浴びながら沢の流れる音の子守唄にいつしか寝入っていた。



5時に目を覚ますと辺りが騒がしく早朝から登山者がつめかけてここから別当出合までのバスの始発を待っている。5月の出合いで親しくなった「白山の仙人」ことバタヤンと約束の時間に出会う。そのいでたちは編み笠をかぶり、ジャージに地下足袋姿、背負子に50cmの山刀、そしてピッケルならずツルハシを持ったスタイルだ！。5月の雪山でもシュラフカバー一枚でツェルトも無しで寝たりと、本当に豪快な「60才のオヤジ」である。

途中、「ここが最後の水場や」とゴソゴソと道をそれたかと思うとササの葉でトコ受けを作り見事な水場に変身した、これには脱帽。

8:45 チブリ小屋着 小休止



チブリ小屋

愛妻ちか子もここまでは軽やかな歩調でバタヤンに遅れをとらずにさすがである。これもそのはず週に3回は10kg ザックを背負って私と近所の増位山の西尾根の急坂を上り下りして鍛えているから当然であろう。

小屋からは殿ヶ池フツテ、南龍小屋、室堂小屋が見渡せ、御前峰の中腹には雪渓が残っている。

## 6:00 チブリ尾根よりスタート

この時期は登山者は何百人と来ているが、このチブリ尾根と釈迦新道はルートが長いのでほとんど人が行き来しないので大自然を堪能でき森と会話をしながら溶け込んでいける。ガクアジサイが心細無く咲いて季節の移り変わりを告げている。登山道は2-3日前に降った雨でぬかるんでいる所が出てくるとすかさず持ち前のツルハシで沢に流れるように水の通り道をつけて行く。登山道が荒れないようにと心配りはさすがである。立ち止まっては色々と言明をしてくれてとても楽しく登山が出来るのにはありがたい限りである。



原生林のチブリ尾根



ハエマツに覆われた御舍利山への急登

ここからが正念場の御舍利山へのつづら折れの急登が始まる。

そろそろ、緑豊かだった登山道も稜線に出てからはハエマツにかわり視界が開けてくる。高度も2000mを過ぎる頃になると谷からの吹き上げの風もひんやりと気持ちよく疲れも吹き飛ばしてくれる。

## 10:40 御舍利山山頂

ジャンクションからは空身で別山へお花畑の中を、まるでアルプスのハイジの気分でルンルンで心が和ませてくれる。別山神社でお参りを済ますと、再びザックを担いで南龍へ続く大屏風



コバイケソウ大群生

縦走路を高山植物に囲まれながらハイキング気分に進んでいく。クロユリ、クルマユリ、ハクサンフウロ、

# 御舎利山 2380m



ミヤマキンバイ大群生

である。途中登山道をさえぎるかのように木の枝が出ている箇所では、バタヤン



お花畑に囲まれた大屏風縦走路

き乱れて別世界である。

ここから白水湖へ落ちる斜面は来シーズンの滑降意欲をそそりたてるものがある。

12:30 天池 小休止

ミヤマキンバイの群生地帯で素晴らしく美しいところ

ニッコウキスゲ、チングルマ、ハクサンコザクラ、コバイケソウ、シナノキンバイ、コイワカガミ、イワイチョウ、シモツケソウ、イブキトラノオ、ミヤマトリカブト等々、数限りない色とりどりの高山植物が咲

が刃渡り50cmの山刀で一振りすると見事に道が開ける・・・すごい切れ味である。

13:05 油坂

GWに滑降したこの油坂の斜面にはハクサンコザクラの群落とコバイケ

ソウの群落で覆い尽くされている

13:22 油坂コル

山の中腹から湧き出ているミネラルたっぷりの水に舌鼓をしながら、体中の汗を拭き落とし体もリフレッシュである。それにしても一分も手をつけているとジンジン



天池



山刀をぶち込むバタヤン

して痛いくらいに冷たい。

14:02 南龍キャンプ場



酒宴は盛り上がる

早速に南龍山荘に受付に行く、一人300円は格安である。そうこうしているうちにアッ言う間に空が黒くなり始めたかと思うとゴロゴロと雷音が響き始め本降りになってきた。後続パーティーの石野・大本・貴司の3人は今の辺にいるのだろうか？

この雨ではテントも張れないので、避難小屋へ移動して

バタやんとちか子と3人で宴会にはせ参じることにした。

2時間ほど過ぎると彼らと合流し、夕方になるころには雨も上がりテン場に移動して星明かりで再び酒宴モード。バタやんは明日に福井のボランティアに向かうためにこの暗闇を下山して行った・・・白山の仙人には脱帽である。

25日 晴れ

5:00 起床

昨晚は気温6°、下界の35°とは想像もつかないひんやりとした夜であった。

石野・大本パーティは今日は釈迦新道のロングコースで下山するので早々にスタートをきった。このコースでは七倉山を経て北竜ヶ馬場のコルから湯ノ谷川への滑り込むコース選定の偵察を兼ねている。

我々家族3人はアルプス展望新道から室堂に入り、池めぐりコースから大汝峰、御前峰を経て再び室堂へ、そして弥陀ヶ原を通りクロボコ岩コースで甚之助小屋を経て砂防新道で別当出合へ・・・のコース



アルプス展望台より別山

である。

6:50 スタート

朝露でベトベトになった重いテントをパッキングしてアルプス展望新道の木道をほどなく歩いていくとクマササからシラビソに変わり、稜線に出るころにはハエマツに変わる。同じ緑の葉が高度が上がるに連れて変わっていくのがよくわかる。今日は天候も薄曇りで北アルプス方面は曇りに隠れてまったく見渡せないのが残念である。

御前峰を正面に眺めながらの室堂へのお花街道では今までに見たこともないクロユリの大群落、ナナカマドが真っ白の花をつけてまるでソフトクリームのように見えるのは見応えがある。

8:20 室堂着

ザックをデポして空身で池めぐり方面へと足早に登っていくと、万



お花街道で室堂へ



千蛇ヶ池の万年雪渓



紺屋池の雪渓

年雪を蓄えた幻想的な千蛇ヶ池へとあたる。そこから百姓池、五色池を過ぎて釈迦新道コースのジャンクションを経て大汝峰2684mへと登りつめる。山頂からは彼らが行った七倉山方面が



室堂より弥陀ヶ原

前峰へと登りつめる。山頂からGWに滑った東面台地を見ようと思ったが残念ながら濃いガスのカーテンで白一色の世界であった。

10:58 室堂発

室堂で昼食タイムをとった後、だだっ広い弥陀ヶ原へと下りていく。弥陀ヶ原からクロボコ



見渡せる。

10:15 御前峰2702m

大汝峰からは神秘的な翠ヶ池をすぎ、今だに巨大な雪渓を浮かべている紺屋池を経て御

斜面を見下ろすと、よくまあこんな所を滑ったものだと思う。また別当谷の大トラバースも雪がつけば別世界に変身する大自然の変わりよ



クロボコ斜面

うにはいつ見ても驚かされるものがある。しかし、登山の下りは本当に疲れる、スキーだったら一気に降りてしまうのに・・・。

### 13:10 別当出合

下りは3人とも駆け下りるようなスピードで先行者をどんどん抜かして降りて行く。

別当に着くと、土砂で壊れた旧吊り橋が無惨にもボロボロになりはててそのまま残置されていた。昨日から開通した新吊り橋は谷に一旦降りなくてもいいようにダイレクトにつながっていた。しかしこんなんで冬場の雪の重みにもつのかいな?、とちょっと心配になったが・・・。

### 14:00 市ノ瀬

13時半のバスに乗り込み市ノ瀬に着くと彼らはもう温泉に浸かってくつろいでいた。なんと早いことか!、走って下山したとの事でした・・・これには脱帽です。



大汝峰より、翠ヶ池・剣ヶ峰・御前峰



新別当大吊り橋

### PS

- ・自称「白山の仙人」こと60才のバタやんは、いつまでも子供のような正直な気持ちで自然に接していて素晴らしい人でした。
- ・この時期は砂防新道や観光新道はさけて釈迦新道とチブリ尾根コースを通ると人も少なくより自然と接することが出来て最高である。
- ・山スキーコースとしては、別山周辺、東面台地、湯ノ谷方面と3年に分けて滑り尽くすとより面白いコース選定ができるだろう。